

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第63号

2023年11月15日発行

～食べられる野草クイズ～

答は、本ページの下にあります

ご存じですか？ 身近なところに意外と美味しい野草がありますよ。以下は秋の食べられる野草です。名前を当ててください。

(1)ク〇（葛）



(2)シ〇〇メクサ



(3)〇クイモ



(4)ヤマ〇〇



<答>

(1) クズ（葛）

根、花、葉は漢方薬や食用になる。葛粉は葛餅や葛切りなどの和菓子や、料理のとろみづけに使用される。葉は若葉を天ぷら、おひたし、和え物に。花は天ぷらや甘酢漬けのほか、砂糖煮にすると、お菓子作りにも。

(2) シロツメクサ

食用部位は葉と花。マメ科の植物なので、摘んで洗ったら、豆苗のようにおひたしや炒め物の青味などに使える。花も葉も食べられる。

(3) キクイモ

秋以降に大きくなった根の部分を食べる。じゃがいものように、どんな調理法でもおいしく食べられる。でんぷん質をあまり含まないので、低カロリー。サラダ、和え物、炒め物、焼き物、煮物などに。

(4) ヤマユリ

真っ直ぐな茎と笹状の葉、白い花弁に赤い斑点と黄色いスジのある花を咲かせる。食用にする部位はその鱗茎（りんけい：球状の地下茎）を掘り起こしたところ。鱗茎をばらし、きれいに洗って、蒸し物や煮物、素揚げなどに。

1. 受入農家紹介

鈴木 誠さん （我孫子市根戸）

私は、昭和 25 年生まれです。鈴木家はもともと手賀沼周辺で仲買の仕事をしていましたが、旧水戸街道沿いの現在の地に移りました。この辺は、マツ林が多かったそうで東京湾のお台場の基礎杭に根戸の松を切って使ったという話を聞いています。

今の住まいは結婚する時に建てた家なので 40 年位ここで生活していることになります。家族は妻と娘 3 人で孫は 5 人。今は、妻と 2 人暮らしです。

農業は子どもの時から手伝いをしており、学校を卒業した 23 才頃から本格的に農業をやるようになりました。農産物は、昔は「かぶ」1 本で柏市場に出荷していましたが、「あびこ型「地産地消」推進協議会」が設立し、農産物直売所「あびこん」が出来たところから、多品種・少量生産として、ネギ・ほうれん草・枝豆等をはじめました。当時、農業青壮年会議と農政課・遠藤先生・市民グループと何回も話し合いが持たれ、遠藤先生からはエコ農産物の栽培を勧められました。

現在は、直売所の他にもスーパーストアの地元農産物コーナーにも出荷しています。今は多種類・少量生産で、季節の野菜を主体にきゅうり・大根・枝豆・ブロッコリーなどを主体に栽培しています。



鈴木 誠さん



家の門と家の間に樹齢 300 年の「柿の木」

自分が農業を継いだころは畑と林だけの土地が、今では畑が住宅に囲まれています。農家仲間とは、コロナ禍前は良くカラオケに行きました。三山ひろし、石原裕次郎、渡井哲也、伍代夏子など、演歌が好きです。最近はありませんが、学生時代は学校の帰りに映画を見に行ったものです。テレビは、アクションもの、時代劇などをビデオに録画し、時間の空いた時などに鑑賞しています。

2. 受入農家紹介

相馬 伸年さん（我孫子市湖北台）

こんにちは！そうま農園の相馬伸年です。まだ受け入れ農家を始めて2年ほどのため、お目にかかっていないの方が多く、援農ボランティアさんの紹介のほうが読みたい気もするのですが、原稿の依頼をいただいたので、私共のことを少しPRします。

そうま農園、今年で農業を始めて10年になります。農家出身でもない夫婦二人が、週末に農業大学校へ半年通い、妻は成田で有機農業の研修を二年間受ける等の準備を経ての就農です。それまでは、農業を仕事にするなど考えたこともない生活を送っていましたが、食品会社での勤務経験や、妻の学校での栄養士業務などは無駄にはならず、農業に活かせていると思います。妻は援農ボランティアに第二期から所属しており、在籍歴はベテラン級ですが、月に一度参加すれば上出来、私が車で送り迎えをし、作業後にいただく野菜を楽しみにしていただけのようです。私も八期に会員となり、援農で農作業に触れるようになりました。

そうま農園は、農薬・化学肥料を使わないで栽培する、いわゆる有機農業で少量多品目の野菜を育てています。無農薬で育てた体に良い野菜を皆様にお届けしたい、と思い立った訳ではなく、援農ボランティアをしていたころにお邪魔したベテラン農家の方と同じ野菜を作っても太刀打ちできない、何か特徴を出さねば、と感じたからです。その点では援農ボランティアをした経験が存分に活かされています。お邪魔した農家の方や、その他の方にも有機農業では食べていけないよ、とお声がけいただけたのも農家の方と知り合えたからこそとも言えます。

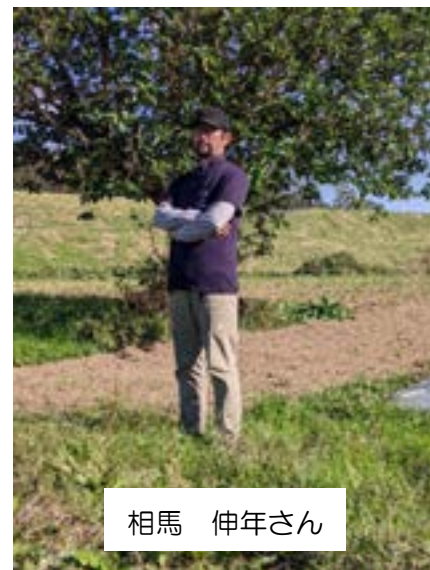
葉物野菜は虫食いで正品率は悪く、有機肥料のためか野菜のサイズも小さめで、「それミニレタス？珍しいね」（普通のレタスです…）と言われたりもしますが、私共の販売先の一つ、朝市やマルシェなどでは有機農業はアピールポイントとなっています。直接お客さんの声を聞ける機会でもあり、売り上げ金額がたとえ低くても大切にしている販売先です。もし我孫子市内でそのような出店場所をご存じの方がいらっしゃったら、ぜひ教えてください。

「そうま農園さんは珍しい野菜が多いね」と言っていただけでもあります。朝市やマルシェは昔ながらの行商と似ているのだと思いますが、どの季節にも数種類の野菜を用意する必要があり、また野菜セットの宅配もしているため、定番野菜以外も栽培しています。その際には、ただ珍しいだけではなく、自分たちが食べて美味しいと思えるものを選ぶようにしています。もしご興味がありましたら、直売所の「あびこん」や市内・近隣の「わくわく広場」が主な出荷先です。馬のマークのシールを目印としていますので、どうかお買い求めの上、味の感想等教えていただけたら幸いです。

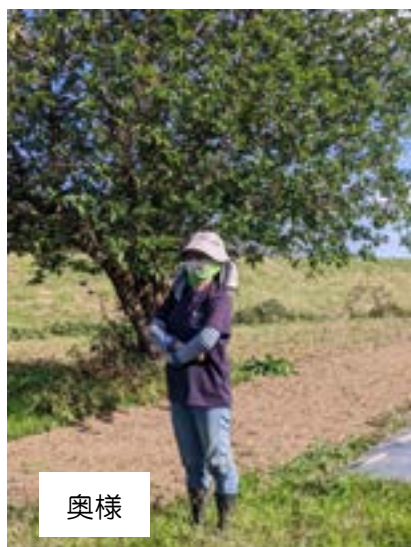
最近、農業に興味を持つ若い方が増えているようで、そうま農園にもお手伝いに来てくれる方がいたりして、若いのに偉いなあと感心しています。ただ、仕事を辞めて農業を始めたいという方が家族を養っていく必要がある時には、あまりお勧めしていません。そうま農園、いつも崖っぷちです。なんとか二人食べてはいますが、そんなに稼げる仕事ではないなあと痛感しています。しかし、やりがいがあり、何度か転職もしましたが今までが一番仕事が楽しく、充実した生活を送っています。と、ここまで妻が書いています。

「二人で書こうね？」「書き出しいいね、自分もそう思った」って？続きだよ、必要なのは。書いてください。「今やろうと思ってた」聞き飽きた。「うーん、そうだね」もです。何にも答えてません。考えろ！

では、皆さま、ごきげんよう、お会いできるのを楽しみにしています。



相馬 伸年さん



奥様

3. 第20期養成講座に参加して

我孫子の農ある住環境のために自分が果たせる役割とは？

～地域参加への自身の選択 自分にとっての援農ボランティア～

援農ボランティア 第20期 出口 一幸（広報部会）

最近、我孫子市は流入人口が増え、地価も上昇しているというニュースを聞きました。さまざまな施策、水辺の自然は豊かでたくさんの緑があり、住みやすい街なのだそうです。

もともと、自分と野菜との関わりは、暑さ避けのグリーンカーテンが始まりでした。やがて、自分が食べる野菜を自分で作ったらおもしろそう、ならば、農家を手伝って逆にこちらが作り方を学ぼう。そんな関心から援農ボランティアについて知ったのはずいぶん前のことですが、いつか参加しようと思いながら、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

自分の庭やベランダ、借りた畑で野菜を作っているの、栽培について学ぶ機会には恵まれ、農業についての情報感度も自然と上がっていききました。農家さんの畑ではどんなふうに作っているのだろう、いまやっている作業は何のためだろう、あの設備はなんだろう、興味を持って見ていると、ひと味違う生きた営みの風景に見えてくるようになりました。

耕作放棄地が目についたり、関連報道などが気になりだしたのも、こうした日々の必然であったのでしょう。「農」は環境の一部です。農業の問題が、自然と住環境が調和した「住みやすさで人気の街・我孫子」の、もう一つの現実であることに否応なく気付かされました。

かつて耕作されていて、私たちの食べ物を作っていた農地が、さまざまな事情で営農が困難になっている耕作放棄地は全国的な問題です。営農が困難になれば耕作放棄地はさらに増え、害獣が出没したり、草が茂れば人目につきにくなって不法投棄も増え、環境にも悪影響が出ます。これからは、「外国から買えばいい」から「安全で十分な自国供給増」に転換していく時代です。我孫子の農業振興のため、我孫子産農産物の地産地消を訴える当会の主張も、そうした環境維持を含めた取り組みといえるでしょう。

国全体で農業人口が減っていく趨勢は、一個人の力では抗いようがない大きすぎる問題ですが、食料供給以外の面でも、美しい我孫子の里山景観を守ることは、地域環境の受益者である市民も向き合うべき課題で、農家の責任だけに帰するものではありません。

こうして、多面的な関心を持つようになり、援農ボランティアというかたちで、この問題に関わる意義を見出したわけですが、去年は応募締め切りに間に合わなかったので、まず当会に入会し、自分にもできそうなことから始めてみることにしました。たとえば、養成講座に参加する前の準備として、農業の基礎知識を身に付けるべく、農業技術検定3級を受験し合格、外国政府の農業視察団から依頼を受けて通訳を務めるなど、仕事面でも変化が生じました。その後も畑での試行錯誤を繰り返しながら次の2級合格を目指していますが、用語に強くなることで、栽培について教えてくれる農家さんたちや、種苗店や資材店との会話にもついていけるようになり、以前よりも身近に感じられるようになりました。

幸い、今年2023年の養成講座応募には間に合いました。今後は援農ボランティアというかたちで、こうした知識や意欲、仕事で得た知見や経験が、当会を通じて知り合う農家さんとなつながら、それがわずかでも、我孫子の農ある緑の環境を守る一助になればと願っています。

（市内在住、中国語翻訳者・文筆家。2023年援農ボランティア養成講座に参加）



杉浦さんの農園にて。右端が筆者

4. 市民のチカラまつり

広報部会長 若王子 範文

例年参加している「市民のチカラまつり」に今年も活動展示・紹介部門で参加しました。

今年の市民のチカラまつりは「つながる、生まれる、多世代交流の輪」をメインテーマとして「活動展示・紹介」をアビスタストリートで9月15日（金）～9月25日（月）の間展示されました。「参加・体験」を9月23日（土）にけやきプラザ1階～11階・アビシルベ・けやき広場で講演・シンポジウム・音楽・健康スポーツ等が開催されました。他に「販売」を9月23日（土）にけやき広場・イトーヨーカドーで行われました。

「市民のチカラまつり」は、我孫子市の市民活動団体が中心となり、行政・学校・企業・商店など多様な主体と連携しながら実施する「多世代交流まちづくりイベント」です。地域貢献活動の紹介、参加体験型イベントなどを通じて市民活動を多くの人に知ってもらうように行います。



5. 消費生活展

広報部会長 若王子 範文

令和5年2月に消費生活展で展示された各団体のパネルを今年もアビスタストリートで展示をしました。

今年は8月1日～10日までの10日間の展示です。あびこ型「地産地消」推進協議会は団体テーマ「農・自給率」の1枚目に“食糧自給率”37%、2枚目に“食料の国産率”、3枚目は“食料自給率・食料自給力アップ”、4枚目は“身近なエコ農産物”の4枚を展示しました。アビスタストリートを通る人の内パネルを見たり・配布物を取ったりして関心が有るかなと思う人が約1,160人位かなと事務局ではみています。最近は冬・夏と2回展示会を行うのが通例のようになってきました。冬と夏の違いは冬の2月は各団体ともに説明者を置き見学者に質問あると丁寧に解説をして答えています、夏の8月は展示するのみで特に人は張付けてはいません。



6. 第20期養成講座

援農ボランティア部会長 井出 史郎

私は第8期の援農ボランティアとしてこの活動に加わり
ました。今年で援農ボランティア活動も20年目を迎える事
が出来ました。これも我孫子型”地産地消”推進協議会会員
の皆様、そして市役所・農政課の方々のサポートがあつての
事と深く思います。

まことにありがとうございます。そして今後とも、引き続
き叱咤激励をお願い致します。

さて、今年も援農ボランティア養成講座を開催することが
できました。今回は、体験修了者も含め8名で養成講座を
スタートしています。

10/14の開講式を皮切りに、実習を2回、受け入れ農家
を訪問するバスツアーを実施し、11/11に閉講式を迎える予定です。けが等無く、新しいボランティアメンバ
ーが加わってくれることを願う次第です。

閉講式では、受け入れ農家として仲原さんに少しお話をお願いしています。援農ボランティアを受け入れる立
場としてお話を聞くことを楽しみにしています。その後は簡単なお弁当を食べる時間もとっています。実習のこ
と、ボランティア活動についても色々お話できたらと思っています。

今年はコロナウイ
ルスもある程度は落
ち着いてきているよ
うなので、年末の忘年
会等、年始のちびっこ
餅つき大会等イベン
トも開催予定です。皆
様ぜひご参加くださ
い！！



発 行 : あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住 所 : 270-1146 我孫子市高野山新田193 (「水の館」2F)

(業務日 月・火・木) 9:00~17:00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

(協議会ホームページではカラーでご覧いただけます)

